

#### IV 参 考 文 献

- 北隆館 原色昆虫大図鑑 I  
保育社 原色日本蛾類図鑑  
神戸新聞出版センター 六甲の自然

## 明石市でヒメタイコウチ見つかる

三 宅 隆 三

1985年8月24日 神戸大丸百貨店において行われた神戸生物クラブ主催の「作品鑑定会」にヒメタイコウチが持ちこまれた。原田貴晴（神戸市立桜の宮小学校5年）君で、8月6～7日に採集したという。生きたままの2匹が持ちこまれたが、2日間で28匹を捕えている。採集場所が定かでなかったため、8月31日に貴晴君と彼の父親の2人にご案内いただいたところ、明石市大久保町松蔭にある“中笠池”であった。この日も、貴晴君が6匹、私が2匹の計8匹を採集した。貴晴君は、ザリガニとりに来ていて偶然に見つけたとのことである。以下の点で重要と思われるので報告する。

ヒメタイコウチは、愛知県を中心に濃美平野の各地によく見つかっているが、日本での最初の発見地が西宮市であり、兵庫県には緑の深い昆虫の一つである。また、生息地が局限的で神戸市西区榎谷町が西限であったので、こん回の発見は、それを修正するものとなり大きな意義がある。

明石市を東にして東播、中播地区には多くのため池があり、発見例が続くように思われる。ヒメタイコウチは、氷河時代に朝鮮半島を経て日本に侵入したと考えられていることを合わせると、生息域は、さらに西に広がるものと予想できる。

## ヒメタイコウチの分布域と生態に関する文献

三 宅 隆 三

ヒメタイコウチが明石市内で見つかった。神戸市西区榎谷が西限とされていたのが、今回の発見で分布域はさらに西に広がった。ところで、ヒメタイコウチを見つけても、分布域が局限的である

がためか図鑑に載っている例が少なく、同定に困る。また、生態(生活史)を扱った文献にふれる機会もないので、飼育にも難儀すると聞く。そこで、筆者が持つ、あるいは承知している文献をもとに市(町)名をあげて現在の分布域を明らかにしておきたい。また、飼育を行う場合の参考になる文献を紹介することにする。

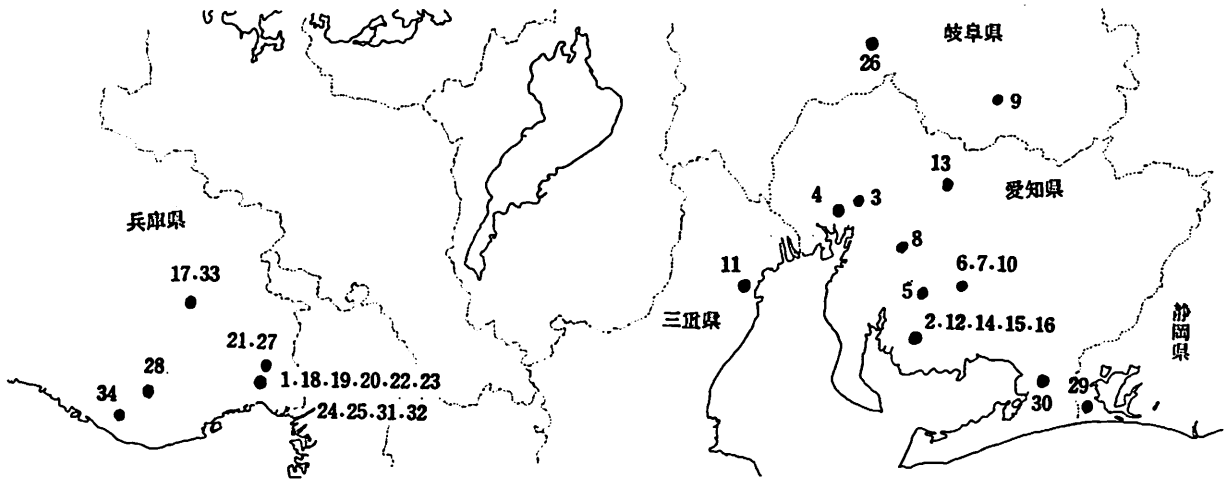
〈分布域に関する資料と分布域〉

採 集 場 所	採集年月	採 集 者	文 献		
			報告(発行)年	紙 誌 名	報 告 者
1 兵庫県武庫郡甲東園	1933. 5	戸沢信義	1933	関西昆虫雑誌 1巻2号	江崎 悌三
2 愛知県西尾市八ツ面町	1935. 1	山田満寛	1935	昆虫界 3巻16号	山田 満寛
3 名古屋市昭和区	1937. 5	服部広吉	1937	昆虫研究 2号	服部 広吉
4 名古屋市中川運河附近	1937. 5	平手雑二	1937	昆虫界 5巻45号	服部 広吉
5 愛知県安城市	1949.	神谷 平	1954	中部昆虫同好会報 1号	鈴木 吉夫
6 愛知県岡崎市学大農場	1953. 5	神谷一男	1954	同 上	同 上
7 愛知県岡崎市岩津町	1953. 5	鈴木吉夫	1954	同 上	同 上
8 愛知県豊明町	1953. 8	鈴木吉夫	1954	同 上	同 上
9 岐阜県瑞浪市湊ヶ洞	1953. 5	佐藤正孝	1955	中部昆虫同好会報 7号	佐藤 正孝
10 愛知県岡崎市竜泉寺	1954. 9	佐藤正孝	1955	同 上	同 上
11 三重県四日市市垂坂山	1956. 5	石田昇三	1958	ひらくら 24号	大川 親雄
12 愛知県西尾市小間町 <sup>※1</sup>	1959. 8	山田満寛	1960	西尾昆虫同好会報 2巻1号	山田 満寛
<p>※1 同町については他に次の採集例が1967 ヒメタイコウチ綜説 山田満寛で報告されている。  1962. 7 宮本正一, 1962. 10 山田満寛 1966. 10 李 昌彦, 長谷川 仁, 大川親雄, 奥谷禎一</p>					
13 愛知県瀬戸市品野町	1960. 8 1961. 8	田中義信	1963	Nature Study 9巻2号	田中 義信
14 愛知県西尾市八ツ面町	1962. 7	宮本正一	1967	ヒメタイコウチ綜説	山田 満寛
15 愛知県西尾市米津町	1967. 5	山田満寛	1967	同 上	同 上
16 愛知県西尾市中原町, 小島町, 西浅井町, 東浅井町, 上羽角町, 下羽角町, 下永良町, 貝吹町, 駒場町, 家武町, 室町, 善明町, 平原町			1973	西尾市史史料Ⅳ  (八ツ面町, 小間町, 米津町以外の西尾市内の採集地が挙げられている)	同 上
17 兵庫県三田市沢谷湿原			1975	兵庫県の自然 5巻2号	奥谷 禎一

18	兵庫県西宮市甲山湿原	1976. 8	三宅 隆三	1976	兵庫県の自然 6巻2号	三宅 隆三
19	兵庫県西宮市大社町	1976. 8	塩崎 裕二	1976	同 上	同 上
20	兵庫県西宮市広田町	1976. 8	黒川 晴介	1976	同 上	同 上
21	兵庫県宝塚市鹿塩 1丁目	1976. 8	藤井 敏一	1976	同 上	同 上
22	兵庫県西宮市上ヶ原 6番町	1976. 9	亀田 信	1976	朝日新聞(9月27日) 報道※2	
※2 1969年頃に同所で採集したこともあるとの内容になっている。						
23	兵庫県西宮市岡田山	1977. 8	神戸女学院 大自然愛好会	1977	神戸新聞(8月27日) 報道	
24	兵庫県西宮市上ヶ原3番町, 高座町, 上甲東園 1丁目 獅子ヶ口, 日野町	1977. 4 ~ 1978. 4	西宮市立 西宮高校 生物部	1978	兵庫県の自然 会員のひろば 4号	三宅 隆三
25	兵庫県西宮市甲東園	1977. 3	足立 芳樹	1978	昆虫と自然 13巻1号	足立 芳樹
26	岐阜県関市稲口柳洞	1979. 4	高井 泰	1979	昆虫と自然 14巻14号	高井 泰
27	兵庫県宝塚市宝塚ゴルフ場周辺			1980	宝塚市史 7巻	奥谷 禎一
28	神戸市垂水区榎谷			1980	同 上	同 上
29	静岡県湖西市梅田	1980. 9	井上 智雄	1981	昆虫と自然 16巻2号	井上 智雄
30	愛知県豊橋市岩崎町	1966. 6	井上 智雄	1981	同 上	同 上
31	兵庫県西宮市神園町	1982. 6	神谷 潤, 矢間清次, 島 孝次	1982	昆虫と自然 17巻14号	久保 和弘
32	兵庫県西宮市西田町	1983. 4	福田 崇	1983	神戸新聞(4月23日)報道	
33	兵庫県三田市上相野	1985. 5	本田 充穂	1985	神戸新聞(6月25日)報道	
34	兵庫県明石市大久保町	1985. 8	原田 貴晴	1985	きべりはむし 13巻2号 (予定)	三宅 隆三

ヒメタイコウチが見つかった市町を地図上にプロットすると図のようになる。兵庫県と東海地方の4県(三重県, 愛知県, 岐阜県, 静岡県)の計5県である。これらの中間に位置する府県での発見がないのが不思議なほどに、互いに離れた位置になっている。明石での発見は、さらに西への分布域の広がりを感じさせるように、これらの中間の府県でも発見される可能性は多分にあると思われる。生態に関する文献のいく

つかには、きれいな水の流れにしか住めないように記されているが、経験から言えば、必ずしもそうではない。常に湧水があることだけが分布地点に共通していた。家庭排水が流れこむ側溝でもけっこう生息している。成虫も飛翔がないので、どんどん広がる仲間ではないにしても、これら中間の地域で、なぜ生息していないのかの合理的説明はむづかしい。むしろ、きつと生息しているはずだという思いがする。



〈生態に関する文献〉

飼育の際に大切なことは水を深くしないことである。1～2 cmでよい。砂で陸をつくり、ミズゴケを水際に少し敷くのも良い。餌は陸上を歩くダンゴムシやハサミムシが便利で飼育容器に放りこんでおけばよい。水生昆虫ではあるが深いとおぼれる。メダカなどを捕えて餌にすることもあるが、あまり泳がず陸に上っている方が多い。

	著者名	標 題	紙 誌 名	発 行 年
1	山田 満寛		ヒメタイコウチ綜説	1967
2	山田 満寛	西尾市の半翅目	西尾市史 史料Ⅳ	1973
3	奥谷 禎一他	低地湿原とヒメタイコウチ	新・兵庫の自然	1976
4	岡田 俊典	ヒメタイコウチの飼育から	インセクタリウム	1976
5	河路 掛吾	ヒメタイコウチの観察アルバムⅠ,Ⅱ	佳香蝶	1976, 1977
6	伴 幸成他	ヒメタイコウチの生活史	昆虫と自然	1980
7	三宅 隆三	ヒメタイコウチの採集と飼育	採集と飼育	1979
8	三宅 隆三	ヒメタイコウチの飼育例	昆虫と自然	1980
9	三宅 隆三	ヒメタイコウチのふ化	昆虫と自然	1980
10	奥谷 禎一	動物編(昆虫類)	宝塚市史(7巻)	1980